



津波に加えて火災が発生した山田町では、「焼け野原を走る配送車を見て、うれしかった」と多くの組合員が話してくれた。

組合員に「安心」を届けるため 共同購入を一斉再開



臨時の商品案内を配布しながら安否確認

共同購入の再開を告げる、商品案内「Week」の臨時版（文字だけのチラシ）と注文書が組合員に配布され始めたのは3月28日から（配達は4月11日から）。

それと同時に組合員の安否を確認し、お見舞い品を渡すために組合員宅を訪れた班担当者の多くが、「生協（共同購入）が来るのを待っていた。利用してよかったです」「顔が見られてよかった。来てくれてありがとう」などの感謝と喜びの声を掛けられた。

「それほど食料品などが手に入らない状態が続き、共同購入の再開を待っていたのです」と共同購入運営部長の熊谷修さん（くまがいのさむ）は言う。

いわて生協

いわて生協の共同購入を利用している同県沿岸部の組合員は、18,554人。震災でサンネットのシステムがダウンし、物流が滞ったため配達はストップした。しかし被災から3週目となる3月28日から商品案内と注文書の配布を再開し、同時に安否確認も行なっている。共同購入の再開は、組合員に「安心」を届けながら進む。



いわて生協 共同購入運営部長 熊谷修さん

沿岸部の陸前高田市、大船渡市ではスーパーマーケットが津波によりほぼ壊滅状態で、何も買えない状態が続いていたのだ。携帯電話が通じず停電で連絡が取れなくなった中、インターネットでいわて生協に連絡をしてきた組合員さんもいた。生協の注文サイト「eフレンズ」に、「無事です」「生協さんはいづ共同購入を再開しますか」などの書き込みがあったという。

沿岸部では、職員の半数が避難所などで暮らす

沿岸部の職員の多くが被災して家を失い、半数近くが避難所や親戚の家などで暮らし、出勤が困難な者もいた（4月5日時点でも約半数）。支部に寝泊まりする者もいた。10台の配送車が津波に流れ、水浸しとなった支部もあったし、被災地域に配送車が入っていけるかの確認にも手間取った。

しかし、多くの人びとが職を失ってしまった被災地の状況の中で、自分たちの仕事ができること、そして組合員に会えるよう



安否確認で訪れた組合員の横田輝子さん宅。共同購入再開をととても喜んでくれた。

「商品案内の配布は、基本的には家が無事だったところが対象でした。がれきに埋まる町に十分な道路はありません。いつものルートが通れずに引き返したり、迂回を繰り返して、限られた時間の中で組合員さんに会うために、班担当者は本当に努力しました」と熊谷さん。

4月15日までの安否確認で会えた組合員は、共同購入利用者全体の約65%。避難所にいる組合員との接触はまだほとんどできていない状況にある。

津波と火事で壊滅した山田町に行く



共同購入宮古支部 班担当 大川貴史さん
山田町に住んでいた大川さんは、津波で祖母を失い家も流された。親戚宅に身を寄せ、担当班の組合員の安否確認活動に取り組む。

注文書の回収が始まった週の4月6日、津波に加えて火災で町の8割ほどが壊滅した山田町を配送車で訪ねた。

焼けた町では、がれきの撤去が始まっていたが、もうもうと灰やホコリが舞い上がり、マスクなしではいられない。そんな焼



津波や火災で多くの家が被害を受けた山田町。復興に生きる人びとのため、いわて生協も共に歩んでゆく。

け野原の中をいわて生協の配送車が走ってくるのを見て、「生協が来てくれた！」と、組合員は庭先で待っていてくれる。皆さんが、口々に「うれしかった」と言ってくれた。

前の週の商品案内配布で会えなかった組合員を訪ねると、ちょうど浸水した床の畳を上げているところだった。宮古支部（宮古市）班担当の大川貴史さんが「どこに行つてたんですか？」と聞くと「今まで避難所に居たんです」と横田輝子さんは答えた。

「これまでは避難所の配給品を頼りに暮らしていたんです。注文が少なくても配達してくれる生協さんが来週から来てくれるので、とても助かります」と満面の笑みで喜ぶ横田さんに、大川さんはお見舞い品を渡した。

生協らしい支援方法を考える

今後の課題は、「まず被災者の方の安否確認を優先しながら、避難した人たちが生協を利用できる方法を考えることです」と熊谷部長は言う。

現在すでに、全ての財産を失い収入が途絶え、共同購入利用を断ってきた組合員もかなりいる。これに対しては、「個配手数料を支援するなど何らかの方法を考



浸水からの復旧作業に取り組む、いせん支部（大船渡市）。

えたい」とのことだ。

また、仮設住宅ができるまで避難者の新たな生活が始まる。こうした場所に班をつくり、人と人とのつながりをもっと助け合いの中で暮らすことができる生協らしい支援方法を考える必要がある。そのためには小まめに現場の情報を入手し、何が必要で何を生協に期待するのかを把握した上で、企画に反映させることが重要だ。熊谷部長は、「組合員のニーズをしっかりとかみたい」と決意を述べた。

（文・写真 桐生広人）